

令和5年度 校長だより 第2号

1 新年度が始まって一か月

今年度も、時間の許す限り校内を歩き回り、授業や部活、様々な取り組みの様子を写真に撮って、学校HPのブログで紹介させていただいています。

1年生は、緊張した面持ちで臨んだ入学式から一か月が過ぎ、高校生活に慣れ科学技術高校生らしくなってきたと感じます。2年生は、後輩が出来、頼もしい上級生に成長しています。3年生は、それぞれの進路実現に向けて、真剣に取り組んでいることが伝わってきます。



『時間は有限、夢は無限』、一日一日を大切にしていきましょう。

2 「すぐに役に立たないこと」のすすめ

読んだ本に書かれていた内容の一部を紹介したいと思います。

自分の目標を持ち、それに向かって進んでいても、その道中はうまくいくことばかりではありません。

逆に恐ろしいことは、小手先のテクニックで最初からうまくいってしまうことです。ムダなく効率よく物事が進んでいくと、誰しも「そこでよし」としてしまふ落とし穴に陥りやすい。当初はそれでもいいのですが、それでは「人間的な幅」が育っていきません。

細かい技術的なことや知識は、必要に応じて努力すれば、それなりに身につきます。そこで安心して止まるのが恐ろしい。それよりも、もっと大きな目的や人生の意義を視野に入れたほうが、その先の「伸びしろ」が大きいと思うのです。

大きな方向性を持ったり、自分の価値観を築くことは、ちょうど家をつくるときに大黒柱を立てるようなものです。大黒柱をしっかりさせた上で、ほかの柱や梁、屋根をつけていく。大黒柱が細ければ家はグラつき、ちょっとした風や地震でもひっくり返ってしまう。そうなっては困ります。「学ぶ」ということは、この大黒柱を立て、しかも太く頑丈なものにするためなのです。

一見、ムダにも思える勉強や経験でもたくさんやるべきだ、ということは健康づくりのためにいろいろ努力することと似ています。

体を強くするためには、栄養の面からも、あるいは運動の面からも、そして精神的な面も鍛えることと、さまざまなことをやるでしょう。

その一つひとつが、すぐに役立つわけではありません。何だかムダに思えることもある。けれども、一つひとつをずっとやり続けていると、そのうち効果を発揮してくるのです。三日坊主でやめたのでは、結局は何の役にも立たない。根気よく、バランスよくいろいろなことをやり続けるのが、健康で強い体づくりにつながるというわけです。

人間的な修養も同じです。

精神的な面を学んだり、教養をつけて知性をみがいたり、あるいは感性を育てたりと、さまざまなことをやりながら自分を高め、「知・情・意のバランス」をうまく取るようにしていく。これが「基礎」なのです。じりじりと這いながら断崖をよじ登るように、1メートル、2メートル、3メートルと進んでいく。一生かけて登っていくことです。

私がくり返し言っている基礎づくりとは、この一生をかけて登る「芽」を持つということです。この芽をしっかり持つことが、遠回りのようでいて、やはり一番の秘訣だと思います。

志さえあれば、誰にでもこの「芽」を育てる要素や才能がある。この世に生を受けている人全員に、自分のものを築き上げていく資格や才能がある。私はそう考えています。あとは、実行に移すか、何もやらずに放っておくかだけ。「できない」のは、やる努力を重ねないからということだけなのです。

平山郁夫著『ぶれない 骨太に自分を耕す方法』から)